

授業科目名	生活とデザイン	担当教員名	五十嵐 潤
授業科目区分	教養科目－歴史と文化		
履修区分	選択科目	授業形態	講義
配当年次・学期	1・2年次後期	単位数	2単位
<p>授業の到達目標及びテーマ デザインを生活の中に「ときめき」をもたらす仕組みとしてとらえたとき、クリエイティブな世界に向かおうとするものにとって、デザインの着眼、発想とはどのようなものか、そしてそれらが社会にどのような影響を及ぼすのかを理解することを目的とする。</p>			
<p>授業の概要 生活の諸相にデザインが関わっていることを認識し、日々の暮らしにおけるデザインの基本理解を進める。各種メディア、道具、空間といった多くの媒体によりデザインと日常的に関わることになった今日、デザインの果たす役割を学ぶ。高度成長期から成熟した情報化社会の現在に至る過程で、デザインの役割も変遷している。デザインを生活における課題解決の方法と考えたとき、デザインと個人、デザインと社会はどのような関係にあるのかを考察する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回 デザインについて考える</p> <p>第2回 生活者への視点～柳田國男の民俗学、今和次郎の考現学</p> <p>第3回 日本の近代化について～「今」はどのようにして形成されたのか</p> <p>第4回 デザインの歴史背景</p> <p>第5回 アメリカの影響～大量生産と大量消費社会</p> <p>第6回 衣生活の変化</p> <p>第7回 住生活の変化 1～住空間から考える</p> <p>第8回 住生活の変化 2～家族の変容</p> <p>第9回 食生活の変化 1～調理とその空間</p> <p>第10回 食生活の変化 2～食材の変化</p> <p>第11回 ライフスタイルの変化～モノの側面から考える</p> <p>第12回 ライフスタイルの変化～メディアや文化の側面から考える</p> <p>第13回 産業とデザイン～復興から高度経済成長へ</p> <p>第14回 社会の課題とどう向き合うのか 1～デザインに何が可能か</p> <p>第15回 社会の課題とどう向き合うのか 2～まとめ</p>			
<p>履修上の注意</p>			
<p>テキスト</p> <p>授業内容により適宜配布する。</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>「考現学入門」、「世界を変えるデザイン」、「誰のためのデザイン？」</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>レポート課題（60％）及び試験（40％）により評価する。</p>			

授業科目名	文化人類学	担当教員名	石倉 敏明
授業科目区分	教養科目—歴史と文化		
履修区分	必修科目	授業形態	講義
配当年次・学期	2年次後期	単位数	2単位
授業の到達目標及びテーマ			
<p>人類学は地球上のさまざまな民族文化に学び、人類の心の普遍性を核とするユニークで多様な表現を理解する方法である。本講義では、諸々の文化の根源にある神話や祭り、経済活動や労働、エコロジーや時間／空間認識といった問題を通してこの方法を深め、日本列島の思想表現と世界の文化を統一的に理解するための考察力を養う。</p>			
授業の概要			
<p>本講義では、近年日本をはじめ各国で発達を遂げた「芸術人類学」の知見をもとに、異なる習慣や文化をもつ人びとの間にどのような共通性が存在するかという問題を、人類の心の普遍性という視点から探究する。ここでは特に「対称性」概念に着目し、贈与と交換、生産と消費、労働と遊びなど、異なる原理の組み合わせによって構築される「複論理 bi-logic」のダイナミズムについて学ぶ。</p>			
授業計画			
<p>第1回～3回 芸術人類学入門 旧石器時代の芸術と世界認識／脳科学に見る宗教と芸術の交錯／人間と動物の関係</p> <p>第4回～6回 神話と表現 循環する時空間の表現／音楽と神話／食べ物の起源／住まいと宇宙論／アフリカの映像人類学／エコロジーとしての神話学</p> <p>第7回～10回 贈与と共有 贈与と交換／エネルギーの存在論／芸術・労働・遊び／民藝と生活工芸</p> <p>第11回～13回 今日の神話学 観点主義と多自然論／制度外の芸術について／変換と反転／過去と未来をつなぐ営み</p> <p>第14回～15回 再獲得された世界 芸術制作と生活世界／芸術の神話体系／森はいかに思考するか？／「対称性」の再構築へ (定期試験)</p>			
履修上の注意			
<p>配布資料のほか、適宜映像資料を使用します。なお、新しい研究成果を授業に反映させるため、各回の内容や順番を変更することがあります。</p>			
テキスト			
<p>各回のテキストは適宜配布します。</p>			
参考書・参考資料等			
<p>中沢新一『カイエ・ソバージュ』（全五巻）、奥野他編『人と動物の人類学』、C.レヴィ＝ストロース『野生の思考』、パット・シップマン『アニマル・コネクション』、マルセル・モース『贈与論』など。</p>			
学生に対する評価			
<p>授業への取り組み 30% 課題の成果（試験・レポート） 70%</p>			

7-2

授業科目名	デザイン史	担当教員名	天貝 義教
授業科目区分	専門科目—専門共通科目—美術理論・美術史科目		
履修区分	選択科目	授業形態	講義
配当年次・学期	1・2年次後期	単位数	2単位
授業の到達目標及びテーマ 産業革命以降のデザインの基礎的な概念を理解するとともに、その歴史を学ぶことによって、デザインについての基礎知識を身につけることを目指す。			
授業の概要 この授業では近代デザインの画期的な歴史的事項を概説するとともに、それらの背景にある主要なデザイン理論からデザインの基礎的な概念をとりあげて平易に解説する。			
授業計画 第1回 デザイン史を学ぶ意義について 第2回 産業革命における技術革新と造形意識の変化 第3回 芸術と産業 (1)：万国博覧会と近代デザイン 第4回 芸術と産業 (2)：モリスとアーツ・アンド・クラフツ運動 第5回 芸術と産業 (3)：ウィーンにおける応用美術の振興 第6回 歴史主義からの脱却：アール・ヌーヴォーとセセッション運動 第7回 様式主義から規格化へ：ドイツ工作連盟の設立とその理念 第8回 1920年代の動向 (1)：バウハウスの設立 第9回 1920年代の動向 (2)：バウハウスの発展 第10回 1920年代の動向 (3)：近代デザインとモダン・アートの交流 第11回 アメリカにおける近代デザイン：ビジネスとしてのデザインの発展 第12回 第二次世界大戦前の日本：応用美術と意匠図案の国家的振興 第13回 第二次世界大戦後の日本：戦後の復興と近代デザイン理念の普及 第14回 ポスト・モダニズム以降：デザイン概念の拡張とデザインのモラル 第15回 まとめ			
履修上の注意 教員免許状取得のための選択科目			
テキスト 阿部公正『世界デザイン史』			
参考書・参考資料等 出原栄一『日本のデザイン運動』J・ウォーカー『デザイン史とは何か』 T・ハウフェ『デザイン史入門』など			
学生に対する評価 授業への取組み(40%)、レポート(60%)を基本に総合的に評価し、 60点以上を単位認定要件とする。			

7-3

授業科目名	日本美術史	担当教員名	志邨 匠子
授業科目区分	専門科目－専門共通科目－美術理論・美術史科目		
履修区分	必修科目	授業形態	講義
配当年次・学期	1・2年次後期	単位数	2単位
授業の到達目標及びテーマ この授業では、先史時代から近代に至る日本美術の歴史を概観する。日本美術に関する基礎知識を習得するだけでなく、鑑賞を通じて、表現上の特色などを、自ら発見し理解に至ることを目標とする。			
授業の概要 縄文時代から近代に至る日本美術（絵画、彫刻、工芸）について、主要作品を例示しながら授業をすすめる。また日本美術をより深く理解するために、美術作品に関する専門用語、作品の主題や背景についての解説をおこない、各時代の美術と社会との関係や異文化との交流など、アジアや西洋との関係も視野に入れる。			
授業計画 第1回 イントロダクション－日本とは？日本美術とは？ 第2回 縄文・弥生・古墳時代－土器、土偶、埴輪 第3回 飛鳥・白鳳時代－仏教の伝来 第4回 奈良時代－唐文化の影響と天平美術 第5回 平安時代Ⅰ－密教伝来と貞観彫刻、藤原美術 第6回 平安時代Ⅱ－和様の形成と絵巻 第7回 鎌倉時代－鎌倉リアリズムと肖像画 第8回 室町時代Ⅰ－水墨画の移入 第9回 室町時代Ⅱ－水墨画の展開と狩野派 第10回 桃山時代－障壁画と装飾性 第11回 江戸時代Ⅰ－狩野派の展開と琳派 第12回 江戸時代Ⅱ－文人画と写実主義 第13回 江戸時代Ⅲ－町人文化と浮世絵 第14回 明治時代Ⅰ－油絵の移入と新しい日本画の創出 第15回 明治時代Ⅱ－近代彫刻のはじまり 定期試験			
履修上の注意			
テキスト 使用しない。(適宜、授業内でプリントを配布する)			
参考書・参考資料等 授業内で適宜紹介する。			
学生に対する評価 授業への取組姿勢(20%)と試験(80%)により評価する。			

授業科目名	近代絵画史	担当教員名	志邨 匠子
授業科目区分	専門科目－専門共通科目－美術理論・美術史科目		
履修区分	選択科目	授業形態	講義
配当年次・学期	1・2年次後期	単位数	2単位
授業の到達目標及びテーマ 明治期，西洋からもたらされた油絵技法により，日本人による「洋画」が描かれるようになり，伝統的な日本画も油絵の影響を受けながら展開する。一方，同時期の西欧では，浮世絵をはじめとする日本美術への関心が高まっていた。西洋における美術動向や日本美術からの影響にも触れながら，広い視野から日本近代絵画の諸相を考察することを目標とする。			
授業の概要 全体を通じて，明治初期から戦前までの日本絵画（洋画，日本画）について講じるが，西洋との関係性を考えるために，同時代のヨーロッパ，アメリカにおけるジャポニズムや，当時の美術動向にも触れる。また可能な限り同時代資料を紹介し，読み解いていく。			
授業計画 第1回 「美術」という概念－日本画と洋画 第2回 日本洋画の創始－高橋由一 第3回 技術から美術へ－工部美術学校と初期渡欧画家たち 第4回 日本洋画の新派－黒田清輝と白馬会 第5回 日本画の革新－狩野芳崖とフェノロサ 第6回 日本画の洋風化－横山大観・菱田春草と岡倉天心 第7回 ジャポニズムⅠ－フランス印象派と浮世絵 第8回 ジャポニズムⅡ－後期印象派と日本美術 第9回 ジャポニズムⅢ－ホイッスラーと日本美術 第10回 日本美術のアイデンティティ－1893年シカゴ万博における日本美術 第11回 水墨表現とモダンアート－橋本雅邦とアメリカ美術批評 第12回 ヌードと美術Ⅰ－西洋美術におけるヌードの展開 第13回 ヌードと美術Ⅱ－裸体画論争と日本的ヌードの展開 第14回 個性の重視－白樺派と村山槐多 第15回 日本的洋画の模索－萬鉄五郎と岸田劉生 定期試験			
履修上の注意			
テキスト 使用しない。(適宜，授業内でプリントを配布する)			
参考書・参考資料等 授業内で適宜紹介する。			
学生に対する評価 授業への取組姿勢(20%)，試験(80%)により評価する。			

授業科目名	日本建築史 2	担当教員名	澤田 享
授業科目区分	専門科目－専門共通科目－美術理論・美術史		
履修区分	選択科目	授業形態	講義
配当年次・学期	2・3年次後期	単位数	2単位
授業の到達目標及びテーマ 全国的にも遺構数が多い。近世の建築を取り上げ、その様式、技術的な変遷を理解すると同時に、そこからその建物の建立年代を判定する能力を養う。 ・テーマ 日本古建築の様式、技術の変遷 日本古建築の建立時期の判定法			
授業の概要 比較的現遺構数が多い近世の建物を対象にして、近世建築について理解を深める。すなわち近世Ⅰ：近世における建築界の動向とその建築。近世Ⅱ：寺院・神社・霊廟建築。近世Ⅲ：城郭建築（城郭建築については近世以前のものも触れる）。近世Ⅳ：住宅建築を取り上げ、詳述する。近世建築については秋田県でも数多くの遺構があることから、それらについても併せて概説する。そして建築(美術・芸術を含む)の歴史を基礎知識として身につけると共に、一つの建築を前にしてその魅力を自分なりに感じとり、それ等を正しく伝えることが出来るよう講義を行う。			
授業計画 第1回 城郭建築の歴史と形態 第2回 城郭建築の技術的発展 第3回 近世の住宅(近世住宅の展開) 第4回 近世の住宅(桃山・江戸時代) 第5回 数寄屋建築(茶道の成立、書院の茶と草庵茶室) 第6回 数寄屋建築と数寄屋造の建築 第7回 霊廟 第8回 聖堂と学校建築 第9回 能舞台と劇場建築 第10回 農家建築 第11回 建築技術の発達と発展 第12回 近世の細部意匠と建立年代の判定法(臺股、木鼻の絵様線形を中心にして) 第13回 近世の細部意匠と建立年代の判定法(虹梁の絵様線形を中心にして) 第14回 建築構造(継手、仕口)について 第15回 まとめ (定期試験)			
履修上の注意 必ずテキストを持参すること。			
テキスト コンパクト版 建築史[日本・西洋] 彰国社 3,240円、日本建築史図集 彰国社 2,700円（日本建築史Ⅰを受講した学生は購入しなくてもよい）、自作プリント（適宜）			
参考書・参考資料等			
学生に対する評価 小レポート 20%、本レポート 80%で評価し、100点満点で60点以上を単位認定とする。			

授業科目名	近代デザイン史特講	担当教員名	天貝 義教
授業科目区分	専門科目—専門共通科目—美術理論・美術史科目		
履修区分	選択科目	授業形態	講義
配当年次・学期	3・4年次後期	単位数	2単位
授業の到達目標及びテーマ この授業では、20世紀のモダン・アートとモダン・デザイン運動のモデルのひとつであるバウハウスのデザイン理念について学び、デザインの社会的価値についての理解を深めることを目的とする。			
授業の概要 バウハウスの理念の広がりや、第一次大戦後のドイツにおけるバウハウスの創立と閉鎖から、第二次大戦後の南北アメリカ大陸、ドイツ、日本における具体的事例にもとづいて概説する。			
授業計画 第1回 はじめに 理念としてのバウハウス 第2回 ヴァイマル・バウハウス バウハウスの開校 第3回 デッサウ・バウハウス 第4回 ベルリン・バウハウス 第5回 バウハウスの作家たち(1) グロピウス マイアー ミース 第6回 バウハウスの作家たち(2) カンディンスキー クレー 第7回 バウハウスの作家たち(3) ハーバート・バイアー 第8回 バウハウスの作家たち(4) アルバース モホイ＝ナジ 第9回 バウハウスの世界的なひろがり BMC(1) 第10回 バウハウスの世界的なひろがり BMC(2) 第11回 バウハウスの世界的なひろがり YALE 第12回 バウハウスの世界的なひろがり 南アメリカ 第13回 バウハウスの世界的なひろがり ULM 第14回 バウハウスの世界的なひろがり 日本 第15回 まとめ			
履修上の注意			
テキスト 教科書は特に定めない。			
参考書・参考資料等 阿部公正『デザイン思考』美術出版社 その他の参考資料は適宜配布する。			
学生に対する評価 授業への取組み(40%)、レポート(60%)を基本に総合的に評価し、60点以上を単位認定要件とする。			

授業科目名	シルクロード図像学 2	担当教員名	井上 豪
授業科目区分	専門科目－専門共通科目－美術理論・美術史科目		
履修区分	選択科目	授業形態	講義
配当年次・学期	3・4年次後期	単位数	2単位
授業の到達目標及びテーマ インドに発した仏教美術はシルクロードを東へ向かい、沙漠を越えて中国に伝えられた。隊商路として栄えた西域のオアシス地帯は、多彩な文化が常に混じり合う「民族の十字路」であった。 本講義は、前期に開講する「シルクロード図像学1」のいわば後編として、楼蘭・亀茲などタリム盆地の仏教美術を中心に取り上げる。沙漠に没した「幻の王国」はいかなる文化を持ち、我々の東アジア世界にいかなる影響を与えてきたのか。多彩な民族文化の影響を考えながら、我々の身近に隠れた遠い異文化の影響や、忘れられた本来の意味など、多角的な視点で古代美術の世界について解説する。			
授業の概要 遺跡全体から見た古代美術のあり方、壁画の各テーマから読み取れる美術の変容や文化的背景の検証、細部描写から再現される古代風俗の姿など、複数の視点から西域美術の図像を考察する。講義には配付資料とスライドを用い、幅広い視野で古代美術を捉えていきたい。			
授業計画 第1回 ガイダンス 第2回 ミーラン遺跡と有翼天使図 第3回 古代ホータンの信仰と図像 第4回 キジル石窟の壁画 第5回 図像の継承～型と粉本 第6回 説話図の表現 第7回 天象図と自然神 第8回 瑞像図 第9回 涅槃図とその周辺 第10回 舍利容器と骨臓器 第11回 獅子狩文 第12回 花喰鳥と含珠鳥 第13回 西域の服飾 第14回 シルクロードの楽器 第15回 まとめ (定期試験)			
履修上の注意 講義は一回完結の「読み切り」形式で進める。欠席しても次回の講義に支障は出ないが、欠席した回の内容は取り返しが利かないので注意されたい。			
テキスト 内容に応じ毎回資料を作成、配付する。書籍等のテキストは使用しない。			
参考書・参考資料等 必要に応じ講義の中で紹介する。			
学生に対する評価 試験の成績に授業態度を加味し、授業への取り組み20%、試験成績80%として採点する。単位認定要件は100点満点で60点以上とする。			